

平成29年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に関する総合評価

基礎学力の向上と基本的な生活習慣の確立を図り、生徒一人一人が自己の進路目標実現に向けて意欲的な学校生活を送ることができるよう5つの重点課題に取り組んだ。

学習活動では、年2回の互見授業週間を継続しているが、教員一人につき「是非見てほしい授業」を一つ以上リストアップするという取り組みをしたことにより、互見授業が大きく活性化し、アクティブラーニングや更なるユニバーサルデザイン化授業への取り組みが進展した。生徒の単位修得率の向上にもよい結果がみられた。今後も継続して取り組み、分かる授業をめざし、教師一人一人が指導法の改善に取り組む雰囲気が定着した。

学校生活では、全校集会等や交通安全教室等の機会をいかし、命の大切さを考える予防教育に加え、事故発生時の適切な対処の方法の具体的な指導を取り入れたことにより、実効性があがった。また、生活リズムの大切さを意識づける今年のテーマは、睡眠とした。睡眠をしっかり取ることの重要性を理解させる工夫をしたが意識の向上は低く、取り組む行動に至らずギャップがまだ大きいと感じた。更に行動変容を促す手立ての工夫、指導が必要と感じた。支援が必要な生徒に対しての例年の特別支援教育システムに加え、今年度は次年度に向け、通級の取り組みを検討した。

進路支援では、早期に進路目標を意識させ、進路に望む意欲の向上と進路希望の例年通り実現を図った。年次の進行に合わせた進路ガイダンス、インターンシップ、進路特別講座等の実施により、勤労観や職業観の育成を図った。また、支援が必要と思われる生徒の就職支援の為、外部機関との連携を図った。就職支援教員を中心に企業開拓を粘り強く行うとともに、就職希望者に対して2～4社の「応募前企業訪問」を実施した。生徒一人一人へのきめ細かい指導で、進学・就職の進路目標100%を達成した。

特別活動では、チャレンジデーと称した遠足や体育大会、球技大会等の学校行事に「充実した学校行事だった」「よりよい人間関係が築けた」と答える生徒の充実度の割合が目標を達成した。読書指導では、図書貸し出し冊数の増加を目指したが、伸びなかった。図書館日より、読書会や教養講座等の広報活動を増やし、教師や生徒から推薦図書を推薦してもらうなど、例年通りではなかなか難しい。

その他（総合福祉科）では、現場実習や外部の講師を招いての介護技術公开发表の機会をとらえて、思いやりの心やコミュニケーション能力の育成に力を入れた。年次の段階を考慮した介護技術試験の実施やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開などが生徒の意欲的な学習につながった。この結果、技術と介護の心のレベルアップ、生徒の実習や資格取得への理解や意識が深まり、専門科目への学習意欲が向上した。また、「地域で必要な人材」の育成に結びついた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進を図り、多様な生徒がよく分かる授業を提供する。
- (2) 睡眠の大切さの理解と、朝食摂取の習慣をつけさせるため、指導の工夫をさらに進める。
- (3) 地域の企業との連携を深め、社会人講話や職場見学会、インターンシップ等を体系的に実践する。
- (4) 学校行事の生徒全員参加の取り組みをすすめ、充足感を満たす企画を検討する。
- (5) 読書指導として、図書の価値を知ってもらうよい手立ての工夫をさらに検討する。
- (6) 資格認定や介護技術の修得を図るため、一層の授業のユニバーサルデザイン化を進める。

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成29年度 となみ野高等学校アクションプラン		－1－
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味・関心にもとづき積極的に科目選択をしている生徒がいる一方で、消極的な意識で科目選択をしている生徒も少なくない。自己実現に向けた科目選択を十分に行っているとはいえない。 ・ 進路や単位修得に関して不安を持っているが、日常的な家庭学習や選択した科目に対する授業の取り組み方も積極的とはいえないなど矛盾を抱えている。 	
達成目標	単位修得率	
	90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、互見授業週間を通して授業や指導法の改善に取り組むとともに、ICT機器の積極的な利用や授業のユニバーサルデザイン化の推進を図る ・ 授業や年次別学習等において生徒個々の学力の把握に努め、教科担当者等による個別指導の ・ 国数英の「基礎学力コンテスト」を実施し、年次・教科と連携しながら事前・事後の指導に取り組む。 ・ 通常の授業及び休業中の課題提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を促す。 ・ 学習状況調査や授業に関する生徒の意識調査など各種アンケートを実施し、その分析結果と個人面接とを関連づけて、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・ 担任による面接や個別指導を充実させ、生徒の実態把握に努め、学校生活への意欲を促す。 ・ 年次、教科、進路指導部と連携し、進路目標に応じた学習への取り組みを促す。 ・ 『履修の手引き』の改訂と科目登録ガイダンスの運営を工夫し、多くの生徒が進路目標に応じて、卒業後を見通した主体的な科目選択ができるよう時間割の編成を図る。 ・ 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。 ・ 安易な科目選択をせず、自己実現や学力の向上につながる科目登録ができるよう指導する。 	
達 成 度	91.2% (昨年 88.3%)	
具体的な取組状況	<p><単位修得状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部と連携し[授業の臨み方]を作成し、教員の共通理解を図るとともに、継続的に指導した。 ・ 個人面接や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。 ・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを通し学力の定着を図った。 ・ 科目予備登録を実施し、より適切な科目選択となるよう年次や教科と連携した。 <p><授業改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導法の改善や生徒理解を深める機会として、年2回の互見授業週間を設けた。すべての授業をその対象とし、教科を超えて幅広く参観し、その結果を共有し合った。また、保健厚生部と連携し授業のユニバーサルデザイン化を継続して推進した。 <p><学習・授業についてのアンケート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み状況や教師への要望などについて9月と1月に調査した。 主な結果は以下のとおりである。数値は順に 今年度1月 (昨年・一昨年) 「授業に真面目に取り組んでいる」90%(91%・86%) 「授業は自分にとってプラスになると考えている」81%(82%・73%) 「先生の説明はわかりやすい」78%(87%・70%) 「宿題は提出期限を守っている」82%(73%・65%) 	
評 価	A	ほぼ達成した
学校評議員の意見	年2回の互見授業週間を設け、教師間で切磋琢磨しながらよりよい授業の構築に努めている姿勢を高く評価したい。年次、教科、進路指導との連携を大切にして、生徒の自己実現に向けた取り組みを推進してほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲や意識の低い生徒に対し、進路指導部や生徒指導部と連携し、生徒自身に自己実現に向けた学習の必要性について振り返る機会を設ける。また、年次と連携して学習アンケートを面接週間で活用するなどして、生徒の主体的取り組みを促す。 ・ 授業改善の方策として、互見授業週間、授業への意識調査を継続する。 ・ 分かりやすい授業展開と生徒の授業への取り組み状況向上のため、インクルーシブ教育モデル事業での研修成果を生徒への意識づけに継続して活かしていく。 ・ 共学講座の社会人の意欲的な姿や幅広い考え方を学習の動機付けとして活用する。 ・ 長欠者に対して各年次、家庭、スクールカウンセラー等と連携し、心のケアを図りながら、通信科目の受講を勧めるなど、単位修得に前向きになれるよう支援する。 	

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の高揚 基本的な生活リズムを整えることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故が26年度5件、27年度2件、28年度3件発生している。スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒がいる。 1日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立していない生徒が多い。そのため、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や、遅刻や欠席をくりかえす生徒がみられる。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 ゼロ件	② 「生活リズムが大切」と意識できる生徒の割合 85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動する 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対して安全教室（実技・講義）を実施し、事故防止の徹底を図る。 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握する。 生徒保健委員会による「保健だより」の発行を通して、生活リズムを確立することの大切さについて、啓発活動を実施する。 キャンパスフェスティバルで生徒保健委員会による「生活リズム講習会」を実施することによって、健康管理の大切さを生徒全員に伝える。 年次と連携し「生活リズム」の大切さを意識させる生徒向け研修会を企画・実施する。 学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせることにより、健康管理への意識を高める。
達成度	① 1件(平成29年12月現在)	② 「意識できた」90%、「行動できた」25% (平成30年1月現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、登校指導を実施した。 全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通ルールや交通事故の実例等を説明し、交通安全に対する啓発をおこなった。 全校生徒対象に交通安全教室を実施した。 原付自転車通学生対象に交通安全教室(実技・講義)を実施した。 自転車・原付自転車通学生対象に車体検査を2回(6月・10月)実施した。 毎月2回(1日・15日)、街頭交通安全指導を実施した。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう、資料「交通事故にあったら」を作成し配布(スマホ内に保存)した。 生徒の自転車と自動車との接触事故が4件あり、そのうち生徒に過失、違反があったものは1件であった。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、4分の1以上の生徒が午前1時以降に就寝し、3割以上の生徒が睡眠を「不十分」と感じていることから、今年のテーマを「睡眠」に絞った。 「保健だより」の発行を通じて、基本的な生活習慣の定着について啓発をすすめた。 キャンパスフェスティバルで生徒保健委員会による講習会(「睡眠の秘密」)を実施し健康管理の大切さを生徒全員に伝えた。 冬休み前の生徒集会の場を活用して、生徒保健委員会中心に「生活リズムを大切にしよう」と呼びかけた。楽しい劇仕立てで伝えることで、「生活リズム」への生徒の意識を高めるよう工夫した。 事後アンケートを実施したところ「休み中も起床時間を守れた」生徒は25%であった。規則正しい生活を意識しつつも、リズムを崩してしまう生徒が多くみられた。
評 価	B ほぼ達成した	B ほぼ達成した
学校評議員の意見	ながら運転の危険性、交通安全面の指導に加え、事故発生時の適切な対処の方法の具体的な指導はとても良い取り組みである。	睡眠を中心とした生活リズムの大切さの意識と行動のギャップが大きい。更に行動変容を促す手立ての工夫・指導が必要と感じた。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故を未然に防止するため、いろいろな機会を通して、いのちの大切さ、交通ルール・マナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。 改正道路交通法(自転車の危険運転14項目)の周知徹底を図る。 「交通事故にあったら」の有効活用。交通事故にあった場合、傷害が軽微であっても必ず相手(氏名、住所、電話番号、車のナンバー)を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会を中心とした活動を積極的に実施することができた。来年度もこの活動を継続・発展させていきたい。 基本的な生活習慣について、生徒の意識を高めるための活動を行い、効果を上げてきた。しかし、生徒の行動変容を促すまでにはいたっていない。 来年度は生徒保健委員会による啓発活動と「保健だより」の内容を更に連動させ、生徒の健康への意識に働きかけていきたい。

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣が定着していないため、基礎学力に欠ける生徒がいる。 ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な進路目標を持っていない生徒がいる。 ・ 自己表現力が乏しく、コミュニケーション能力に欠ける生徒がいる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率 100%	② 1, 2年次の2月の進路希望調査時点で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を第一とし、基礎学力・基本的マナーを身につけさせるとともに、放課後などの個別学習を行い、個々に応じた学力の向上を図る。 ・ 年次別学習において、基礎学力の定着を図るために英数国のプリント学習を実施し、その確認の意味で基礎学力コンテストを行う。 ・ 進路ノートの活用、職業研究、インターンシップ、上級学校・職場見学会、進路ガイダンス、進路特別講座などを実施し、進路意識の向上を図る。 ・ 特別支援が必要と思われる生徒の進路目標実現に向けて、関係機関、特別支援教育コーディネーター、保護者との連携を図りながら、これまでの経験を踏まえてその指導計画を作成し、実施する。 ・ 全教員及び生徒指導部との連携を図り、基本的生活習慣の向上が進路目標実現に大きく関わっていることを共通認識しながら生徒への指導にあたる。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や管理職を含む校務運営委員にも協力してもらい、進学・就職試験に向けた面接指導を実施し、社会人として必要なマナーや自己表現力を身に付けさせる。 	
達成度	① 卒業予定者の進路目標達成率 就職 8名 100% 進学 14名 100%	② 進学・就職を明確にできる生徒の割合 (12月末現在) 1年次 74.0% 2年次 85.7%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英数国の基礎学力向上を目指し、年次別学習期間を利用し基礎学力を年3回実施した。 ・ 大型連休後に3, 4年次担当の者で、41社の企業訪問を実施し情報交換を行った。 ・ 進路意識を高めるとともに、卒業後の職業選択について考えさせるため「上級学校・企業見学会」「進路ガイダンス」「進路特別講座(社会人講話)」「先輩講話」を実施した。 ・ 進路選択や進路適性について考えさせるため、2年次生に「インターンシップ」を実施したところ、20名の参加があった。昨年15名でここ数年増加傾向にある。 ・ JSTと連携を取り合い、教員間で情報を共有して生徒への支援を行った。特に、3, 4年次生の就職・進学者者に対する面接指導、2年次に対する今後の意識付けのための面談などを丁寧に行った。 ・ 学校全体が授業の大切さを自覚し、基礎学力の定着を図るとともに遅刻をしない・挨拶、身なりなど授業を通じての基礎的生活習慣やマナーの習得に努力させた。特に、3・4年次に対しては粘り強い指導を行い、年次全体で進路に向けて頑張るという雰囲気を作るように努めた。 	
評 価	B	ほぼ達成した
学校評議員の意見	進路目標達成率や進路を明確にできる生徒の割合について、ほぼ目標を達成されたと考えて良いと思う。基礎学力の向上、企業研究、インターンシップ、面接練習等の取り組みを今後も引き続き実施していただきたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション能力を高めるため就職希望者の面接練習はなるべく早くし充実したものにする。 ・ 各分掌がさらに密接に連携し、学校全体の目標の共有と協力による進路指導をする。 ・ 特別支援が必要な生徒に対する進路指導上のノウハウを蓄積する。 ・ 目標実現に向けて最後まで努力する態度の育成と助言指導のさらなる研究に努める。 ・ 本人の自己理解を深めるとともに、子供に対する保護者の理解を深める努力・工夫をする。その一助として、2年次において職業適性検査を実施する。 	

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への積極的な参加 ・読書習慣の定着 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動や学校行事を苦手とし、行事になると欠席する生徒もいる。特定の人とは話せるが、大勢でのコミュニケーションを苦手とし、集団活動になじめない生徒がいる。 ・昨年度の年間一人あたりの図書貸し出し数が達成目標に近づいたが、入学以来1冊も本を読んでいない生徒もいる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の出席率 ② 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の充実度 ①は90%以上 ②は90%以上	③ 年間の図書を貸りる生徒数 ③は全校生徒の50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。 ・生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話題性の高い作品や生徒の心に響く作品を入れ、それらの案内・掲示を工夫して紹介するなど、読書に対する意識を高めて図書館の利用度を上げる工夫をする。 ・図書委員は積極的に委員会活動を行い、生徒全体に図書館活動への参加を促す。 ・個人購入図書や電子書籍、校外図書館等の貸し出し図書も推奨し、アンケートで状況把握を図る。
達成度	① 87.2% ② 91.1% (充実+まあまあ充実)	③ 46.6% (1月26日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率に関しては、昨年に比べ2%下がったが、充実度は1%UPした。 ・生徒会執行部が事前にアンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。 ・各行事において、生徒一人一人が行事運営上の役割を持つことで主体的な参加につながるよう配慮し、働きかけた。 ・年次を中心とした教師の細やかな声かけや配慮、事前指導が、生徒の目的意識に繋がりと、行事の活性化に繋がった。 ・各行事における個々の役割を自覚することで、自分の存在を確認でき、充実感や自信につながる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本屋大賞、直木賞の受賞作品や、生徒のリクエスト本も積極的に購入し、随時新刊案内を行った。 ・委員会参加依頼を委員個々に行い、参加率の向上を図った。一年を通じて季節にあった図書館のディスプレイを工夫した。生徒支援講座の講師「中島基樹」さんコーナーを保健厚生部の協力を得て作り、生徒への喚起を図った。 ・読書週間では、ポスター掲示や、校内放送では教員からの推薦本の紹介等を行った。 ・読書アンケートを実施し、生徒の図書館利用状況、書籍借入れ状況、図書館利用意欲の把握を行った。 ・各教科の先生方に、書籍を使った授業をしてもらうよう案内した。
評 価	B ほぼ目標を達成した	C 現状維持
学校評議員の意見	学校行事への出席率や充実度は満足がいく。これからも教師の適切な声かけを中心に生徒にやりがいと自信を持たせて欲しい。	貸し出し数が目標値に近づいている。「廊下文庫」など、図書環境の工夫等が功を奏していると思う。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長欠の生徒を除けば出席率・充実度共に目標を達成する。ただし、アンケート未提出の生徒もおり、それらの生徒の意識が気になる。また、充実度が単に楽しむことに留まらずリーダー性をどう育てていくかが課題となる。 ・生徒数の減少により、学校行事の企画・運営について、更に創意工夫をしていかなければならない。また、学校行事だけでなく部活動(数、あり方)についても検討していく必要がある。 ・集団活動が苦手な生徒に対する配慮をしっかりとしながら、社会性を養う上でも参加を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の年間貸し出し生徒数は、昨年度より減少し目標には達しなかったが、図書室へ訪れている生徒は80%(10月末)おり、さらに工夫を加えて継続したい。 ・生徒が興味をもって手に取りそうな書籍を購入し、図書委員が内容の分かりやすいポップカードを作って掲示する。図書館からのお知らせは、図書委員が案内してクラスメイトに知らせ、積極的に行事に参加する。 ・図書館ニュースの個人配布は止め、カラー印刷で見やすい物を各クラスに掲示する。アンケートの意見を活かし、話題性の高い作品や生徒の心に響く作品を選択し、それらの案内掲示に工夫をして紹介する。

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)	
重点課題	専門科目への意欲的な学習	
現 状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。	
達成目標	介護技術の定着度・できた満足度(生徒の自己評価による) 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 ・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。 ・ 関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。 ・ 配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 ・ 授業のユニバーサルデザイン化を進める。 	
達成度	81.2% (1年次 84.4% 2年次 81.3% 3年次 77.8%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に各介護技術の手順と根拠をしっかり説明した後、実習に入ることを心がけた。 ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。 特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 ・ 講義を含めた関連授業の担当者の情報交換を行い、連携に努めた。 ・ 介護技術の繰り返しの練習や、その自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。 ・ 適切な声かけによって生徒に自信をもたせるようにした。 ・ 2月中旬に3年次生が1・2年次生の前で介護技術公開発表を行う予定である。 公開発表のために練習を重ねることでより技術が定着し、自信を持つことができ、1・2年次生にとっては、卒業までの具体的な目標を確認することができる。 	
評 価	A	目標を達成した
学校評議員の意見	3年次の介護技術公開発表は、生徒の自信につながり、また1、2年次にとっては目標を確認する大切な場である。教師の声かけや授業参観が有効に働くと感じた。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 ・ 関連授業の担当者間の情報交換及び連携に努める。 ・ 担当者の評価基準を統一するために、積極的に授業を参観しあう。 ・ 特別支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 ・ 生徒の意欲を向上させる声かけや対応について共通理解を図る。 ・ 介護技術公開発表の場を継続し、生徒同士の学び合いを勧める。 	